

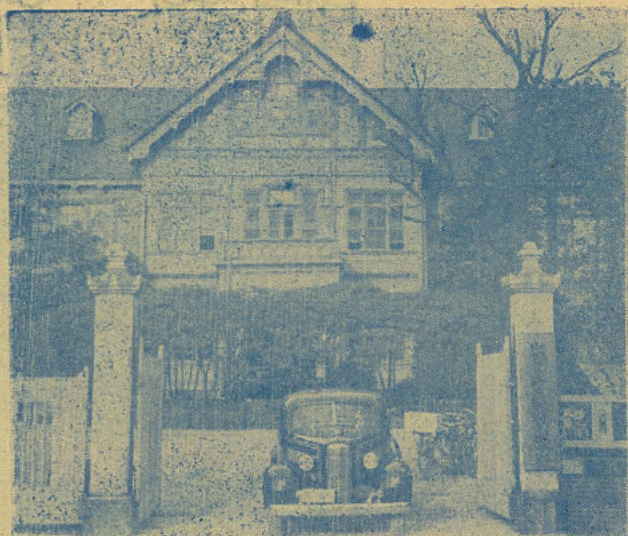
一九五五年

県政の希望



知事

吉謙分国



「興政の課題と取り組んでいく県庁」

昭和三十年の新春を迎え、謹んで新年のおよろこびを申しあげます。

多事多難な一九五四年を送り、一九五五年を迎えるに当り、一言、新年における県政の所信と希望を申しあげることが知事としての当然の義務と考えます。

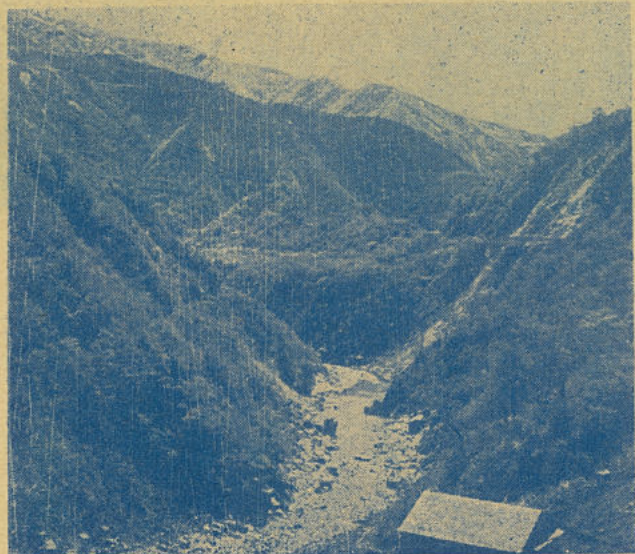
しかし、緊縮財政下において、新しい年にどれだけ県民各位の希望をおこみ予算化ができるかは、只今、県の財政当局に於て、研究を進めている段階であります。その成案を得次第、各位にお知らせし、新年度予算案として県議会の審議をわすらす所存であります。

しかしながら、特に新年におきまして重点的に取りあげていきたいと考えている幾つかの項目を次にのべ、新年のあいさつといたします。

なにとぞ、県民各位におかれましては旧年に倍する理解と協力を県政によせられますよう、こゝにお願いたします。

（北上特定地域の開発促進）

第一に、昭和二十八年から実施にうつされて、「北上特定地域の開発」を一段と促進する必要があります。実施にうつされてから二年間に、閣議決定の十四％（約八十二億円）が完成しましたが、新年度におきま



「新年度にも本格的工事が望まれる湯田ダム」

る協力により、近く自衛隊設置のほこびになるものと思われます。

いよゝ、融雪期をまつて旅団程度の特科隊四千名の宿舎が着工されるものと思われま

（奥羽中部産業開発従貫道路の調査着手）

岩手県では平坦地が開かれ、九割近い山地が開発されていません。奥羽山脈には森林資源のほか、鉄、銅、硫化鉄、金などの地下資源が豊富です。それらが開発されないのは交通網がないことが原因です。

この道路は青森市を起点として八甲田山十和田湖―八幡平―裏岩手山―駒ヶ岳―和賀連峰―栗駒山から蔵王を結ぶ、青森、岩手、宮城、福島を結ぶ道路であります。

この道路が多目的といわれる所以は、道路をつくるために、谷には砂防工事を、川にはダムをつくる必要があります。これによつて治水ができ、ダムからは電力が生れ、その水はさらに灌漑用水になります。すると、奥地でも鉱工業ができるようになります。例をあげますと松尾鉱山のようなところが、奥羽山脈のところ々々にある……という大きな構想です。

この調査を新年から始め、三十五年はかかる予定でたいま、建設省と調査着手を交渉中です。

（二戸九戸高原に世界銀行融資の導入対策）

九戸高原の調査は昭和二十八年で国営調査が終了、二十九年度からは二戸高原の調査が行われています。九戸高原だけでは世界銀行の融資の対象には小さ過ぎるので、二戸高原をも一括して計画をたて、世界銀行から開発資金の融資をうけ入れたいと考えています

の骨幹でありますので、県の組織をあげて促進に全力をつくす所存であります。

（北奥羽調査地域の調査着手）

昨年七月八日、政府から国土総合開発法に定める「調査地域」に正式に指定されたことは、まことに喜ばしいことあります。この指定によりまして、北上特定地域以外の全県が総合開発の恩恵をうけることになったわけです。

しかし、この地域は、これから開発のための調査を行い、計画をたて、それから実施にうつされる順序になりますので、決して「調査地域に指定」されたからといって喜んではいられません。

調査は二年計画で一千万円を要する事業であります。全くとく新しい事業ですから、国庫補助が認められるには相当の努力が必要と思われま

然し、北上特定地域の開発促進と平行して、この北奥羽地域の開発調査に全力をそゝくつもりであります。

（自衛隊の設置決定）

自衛隊の設置につきましては、県議会において設置を決議以来、数回にわたり、防衛庁、林野庁と演習予定地を提供することについて折衝して参りました。その演習予定地に開放している家畜の飼育に必要な用地について、特に交渉を重ね、その間、防衛庁長官及び農林大臣との話し合いにより方針が決定され、具体案が県と防衛庁、林野庁の三者会議により決りました。

その細部につきましては地元営林局署の理解あ

では、さらに六十八億（全体の十一、七％）を実施するよう政府に要請し、強力で運動しております。然しながら、国家財政の緊縮の枠内におきまして、どれだけ実現できるかは、全く予断を許されない状況にあります。

特に、数年来の懸案となつてゐるところの湯田ダムの本格的な着工、岩洞ダムの着工、県営発電などは、さらに折衝を重ねなければならないと信じております。そのほか、東北本線の復線化につきましては、いよゝ、本県内の着工が予定されており、この点は明るい見通しのであります。

この北上特定地域の開発につきましては、本県県政



「自衛隊の行進」